

山田タイム(総合的な学習時間)の取組

山田小学校4年生は、『地域の人・ものに学び、つながり、地域に誇りを持てる子どもたちの姿をめざして「地域とつながる」「子どもと子どもがつながる」「自分の心とつながる」総合学習』に取り組んでいます。昨年の3年生の時に、えびす商店街のお店の方々とつながり、「商店街ツアー」を経験した子どもたちは、今年4月から「もっと山田のまちを盛り上げる活動がしたい。自分たちができることは何だろう。」と探究を始めました。

そして今年度は、自分たちで田植え・稲刈りを体験し、秋に収穫できる「もち米」と市の特産物「やっこねぎ」のコラボ商品の開発や、山田を盛り上げるキャラクター作りなどを行っています。JA高知香美地区やっこねぎ部会や、やっこねぎ生産者の方々にもご協力をいただきながら、今後は商店街のお店の商品とのコラボにもチャレンジしようと考えています。地域の人とのかかわりを通して、地域への愛着を育む活動がどんどん広がっています。

田植えに挑戦しました



JAの職員さんや生産者さんから、やっこねぎへの思いを聞くことができました。

タブレットを使って料理を調べました



JAの職員さんに、もち米粉とやっこねぎを使った料理を手伝ってもらいました。

ワクワク!ドキドキ!あけぼの保育園のなつまつり★

7月1日に、あけぼの保育園のなつまつりが開催されました。コロナ禍の中、規模を縮小して行ってきたおまつりですが、今年は全園児が一堂で楽しめる形でのおまつりとし、子どもたちもこの日を楽しみにしていました。浴衣や甚平に着替えて園にやってきた子どもたちの目はキラキラと輝き、嬉しさいっぱい!!

お祭り当日はあいにくの雨で、園庭でのよさこい鳴子踊りや太鼓などはできませんでしたが、園の中でお店を開店し、おまつりの雰囲気を楽しみました。手づくりおもちゃのお店では、お目当てのおもちゃを買うことができにっこり笑顔の子どもたち!保護者会のお店では、スーパーボールすくいをしたり、わなげやくじ引きのゲームを楽しみました。

おまつりのもう一つのお楽しみは・・・ワクワク!ドキドキ!な「おばけランド」です!今年は、絵本「パンどろぼう」の世界をおばけランドに設定しました。おばけランドの中では、子どもたちにおなじみのアンパンマンや、ジャムおじさんもいて、出てきたときはニコニコ笑顔のみんなでした。ワクワクな体験をいっぱい重ねて、感性豊かに育っているあけぼのの子どもたちです。

今年のあけぼの保育園のなつまつりは、園児と保護者のみで楽しましたが、来年からは、また以前のように地域の方や卒園生にも来てもらい、にぎやかになればいいなと思っています。



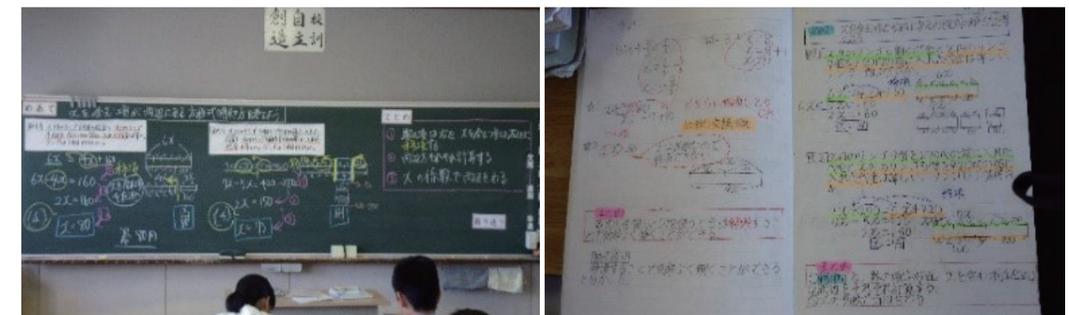
未来につなぐ歴史と伝統

鏡野中学校では、豊かな自然環境の中、現在全校生徒399名が学校生活を送っています。昭和39年(1964年)に、土佐山田中学校と山田中学校が統合され鏡野中学校となって以来、半世紀を超える歴史と伝統があります。複数のプロ野球選手を輩出している野球部をはじめとする運動部、長い歴史を刻んでいる吹奏楽部など、体育面や芸術・文化面においても輝かしい歴史と伝統を刻んできました。歳月は流れても、代々受け継がれてきた鏡野の、鏡野らしい歴史と伝統は、未来につなげていかなければならないという思いを日々新たにしています。

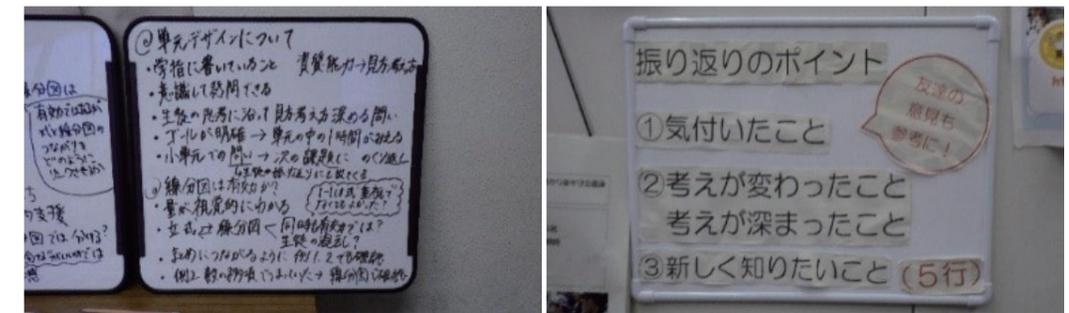
鏡野中学校の校訓は「自主創造」で、生徒会のスローガンは「日本一幸せの多い学校をめざします」となっています。その生徒たちの思いにつながり、令和元年度より、学校教育目標と学校運営協議会(CS)の目標も、「日本一幸せの多い学校 日本一幸せの多い生徒」となりました。

継続して行ってきた取組

1. 学びを振り返る構造的な板書・ノートづくり



2. 単元構想・振り返りを大切にした授業づくり



3. 読みを鍛える(図書館活用授業・新聞掲示版・新聞活用授業)



卒業の色紙に、「継続は力なり」と書いたことがあります。やり続ける中で少しずつ培われる自信は、子どもたちが、これからの社会を生き抜く力の礎になると思います。最近よく言われるGRIT(グリット=粘り強くやり抜く力)という言葉は、「継続する力」によって初めて形成されるのかもしれませんが。教育もまた「継続は力なり」なのでしょう。(前田校長談)